

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 神経血管内治療科 新見康成

【研究責任者】

聖路加国際病院 神経血管内治療科 新見康成

【研究代表者】

大分大学医学部附属病院放射線部

清末 一路

大脳後部の膜に発生する動静脈奇形を対象とした血管構造と 治療成績に関する研究

1.研究の対象

2010年1月～2019年6月に大脳後部の膜に発生する動静脈奇形に対して
当院で脳血管内治療を受けられた方

2.研究の目的・方法

硬膜動静脈瘻とは、硬膜という脳を覆う膜の部分で動脈と静脈が直接交通し、圧の高い動脈の血液が静脈に流れ込む病態です。このため様々な症状を起こすことがありますが、大脳の後部には小脳との境目にテントという膜がありますが、その部分の膜内に発生する動静脈奇形をテント部の硬膜動静脈瘻と呼びます。この病気は脳静脈に血流が逆流するため、脳出血などの重篤な症状を来すことが多いとされて、そのために根治的な治療が推奨されています。治療法としては血管内治療（塞栓術）、開頭手術、放射線治療などがあり、最近では開頭手術をすることなく根治が得られることから血管内治療が選択される機会が増えています。血管内治療による病気の根治性や危険性は動静脈瘻を形成している動脈・静脈の血管の種類やその構築により異なります。またそれらの血管構築は部位により異なると推測されます。しかし、これまで、テント部の硬膜動静脈瘻に関して部位ごとの血管構築とその治療成績を検討した報告はありません。本研究の目的は、テント部の硬膜動静脈瘻の部位による血管構築と血管内治療の治療成績を明らかにすることです。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2022年4月30日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 診断名、年齢、性別、画像データ、手術記録、臨床転帰等

4.外部への試料・情報の提供

データセンターへの上記データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で郵送します。データと研究の対象の方との対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

5.研究組織

研究責任者 大分大学医学部附属病院 放射線部 准教授 清末 一路

研究分担者 大分大学医学部附属病院 放射線科 医員 井手 里美

【研究全体の実施体制】

研究代表者 大分大学放射線部准教授 清末 一路 画像判定委員・研究デザイン作成
共同研究施設研究事務局

久留米大学放射線科講師 田上 秀一 画像判定委員・データ保存

久留米大学脳神経外科教授 廣畑 優 判定会議開催
研究分担者 大分大学放射線科医員 井手 里美 データ解析
聖路加国際病院神経血管内治療科部長 新見 康成 画像判定委員
筑波大学脳神経外科脳卒中予防・治療学講座教授 松丸祐司 画像判定委員
岡山大学脳神経外科助教 平松匡文 画像判定委員
東海大学脳神経外科講師 Kittipong Srivatanakul 画像判定委員
国立循環器病センター脳神経外科医長 佐藤 徹 画像判定委員
藤田保健衛生大学脳卒中センター教授 中原一郎 画像判定委員
昭和大学藤が丘病院脳神経外科教授 寺田友昭 画像・臨床情報提供
虎の門病院脳神経血管内治療科部長 鶴田和太郎 画像・臨床情報提供
小倉記念病院脳神経外科部長 波多野武人 画像・臨床情報提供
広南病院血管内脳神経外科部長 松本康史 画像・臨床情報提供
永富脳神経外科病院放射線科部長 堀 雄三 画像・臨床情報提供